2026年11月2日

会　社　名　株式会社髙島屋
代表者名　取締役社長 村田 善郎
コード番号　8233
連　絡　先　広報･IR室長 大江 真理子
TEL. 03-3211-4111

2026年10月度　髙島屋店頭売上速報

■ 国内百貨店売上高　（前年比　単位：%）

大阪店	△0.0	柏店	+7.9 ※2
京都店	△2.3 ※1	EC店	+10.5
泉北店	+10.3	㈱髙島屋 各店計	+2.0
日本橋店	+11.2	㈱髙島屋 各店 既存店計	+3.8 ※3
横浜店	+1.7	岡山髙島屋	+2.4
新宿店	+6.5	高崎髙島屋	+4.4
玉川店	+2.5	国内百貨店計	+2.1
大宮店	+1.7	国内百貨店 既存店計	+3.8 ※3

2022年3月から「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、店頭売上速報で開示する国内百貨店売上高につきましては、従来の基準（総額売上高）で開示しております。

※1　京都店は「洛西店」の売上高を含みます。なお、「洛西店」は本年8月3日をもって営業を終了しています。
「洛西店」の前年実績を控除した京都店単独の前年比は＋1.4%となります。

※2　「タカシマヤ フードメゾン おおたかの森店」の売上高を含みます。

※3　本年1月7日に営業を終了した「堺店」および8月3日に営業を終了した「洛西店」の前年実績を控除しています。

■ 概況

○前年比(※既存店対比)におきましては、店頭売上高＋2.1%(※＋3.8%)、免税売上高△0.5%、免税を除いた店頭売上高＋2.6%（※＋4.6%)となりました。

○国内顧客については、気温の低下に伴いジャケットやストール等の秋物衣料・雑貨が堅調に推移し、前年実績を上回りました。
インバウンド顧客については、前年の大阪・関西万博による集客効果の反動があったものの、化粧品や子供情報ホビー、リビング関連商品等が伸長したことから、前年実績並みとなりました。 ※インバウンド：前年比【件数(客数)】△3.2%【単価】＋2.8%

○店舗別売上高は、京都店単独（※1「洛西店」の前年実績を控除)、泉北店、日本橋店、横浜店、新宿店、玉川店、大宮店、柏店、EC店、岡山店、高崎店が前年実績を上回りました。

○商品別売上高（当社分類・既存店対比）は、紳士雑貨、婦人服、婦人雑貨、特選衣料雑貨、呉服、子供情報ホビー、スポーツ、リビング、美術、食料品、食堂、サービスが前年実績を上回りました。

以　上